

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571500471		
法人名	株式会社 はまゆう		
事業所名	グループホーム あけぼの苑 B棟		
所在地	宮崎県宮崎市田野町あけぼの2丁目32-1		
自己評価作成日	H30.118	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	平成30年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>認知症になっても、いつまでもその人がその人らしく、地域とスタッフと共に暮らしていけるそして一人一人の役割を大切に自立を大切にする施設です。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>
----------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今行っている介護が理念に添ったものであるかの振り返りは行っているが、職員の入れ替わりもある。見直しまでには到っていない。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・実習生や見学者の受け入れは常に行っている。 ・今年の夏祭りでは、昨年よりも多くの地域の方々が来苑され、盛況であった。午前中はボランティアの方がと踊りやカラオケがあり、利用者が喜んでおられた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所周围には自治会もなく。地域の方々へ向けての発信する場が少なく、取り組みが難しい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の多職種の方々に出席して頂き、色々な意見をもらいながら、サービス向上に活かしている。 (利用者様家族・JA田野・地域包括支援センター・民生員)		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長は機会がある毎に、総合支所や包括支援センターへ出向き、現状報告等を行うことで、協力関係が築けるように努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加したり、棟別での話し合いの中で、度々身体拘束についての理解と意識づけに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・職員が研修会に参加した際は、必ずケース会議でその内容を報告し、話し合いを持ち、虐待が見過ごされない様に取り組んでいる。 ・棟別の会議では、言葉遣いや自分たちの対応について、振り返りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が学ぶ機会を作れるように努めているが、活用できるまでには到っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に御家族へ締結・解約について十分な説明を行い、理解して頂けるよう努めている。又、不安や疑問点を尋ねながら、それに対しても理解・納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会を2か月に一度、家族・利用者の意見・地域の意見などを聞き、又目安箱を設置しその内容を全体会議にて説明し、反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット会議にて意見を聞き、また随時、不安等がある時は個人面談にて意見をまとめ、全体会議にて全スタッフに反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準は、施設の評価制度により、少しずつ上げてきている。やりがいを持つように資格やキャリアアップできる環境づくりをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各スタッフとユニット管理者が定期的に面談をし、初任者・中級・上級という区別をし、それに見合った研修を促してトレーニングしていく事を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・宮崎市連絡協議会・適所・施設 ・グループホームと各サービスや地域のたこの会へ出席し、管理者だけでなく、スタッフにも参加してもらい、ネットワークづくりを積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の声掛けや出来る限り寄り添うケアに努め、本人の言葉が引き出せるよう努力している。本人の行動・表情に注意を払い、不安や要望に気付くことが出来るよう努め、安心して過ごして頂けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時・入居後・ご家族の要望や不安等に耳を傾けながら、又、担当者会議を通して、本人の様子・要望等をご家族に伝え、より良い関係づくりができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネが積極的に窓口となり、本人と家族の意見・要望を聴き、管理者・担当者・他職員との情報共有に努め、必要とする支援を見極め、サービス利用にも反映できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にしている同士の関係を築けるよう、食材を一緒に下ごしらえしたり、洗濯物畳み・干し、テーブル拭きなどをして頂きながら、職員と本人と支えあう関係に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への支援にとどまらず、本人と家族の絆が保てるように外出への支援し、面会時に本人の日々の様子や健康面などを伝え、共に支えあえる関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	2か月に一度の頻度でドライブを実施し、自宅近辺に行ったり、家族への声掛けに努めているが、本人のレベル低下などもあり、年々難しい状況になっている現状です。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士を見極め、良い関係づくりが出来るように配慮している。孤立などが無いように職員がその中に入り、共通の話題を引き出せるように雰囲気づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了した後も、本人・ご家族の要望があれば、いつでも相談や支援が出来るように努めている。他の施設へ移られる際には、本人のそれまでの生活状況・健康面・ケアの工夫などの情報提供を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月1回のモニタリング・カンファレンス(職員会議)又は、担当者会議等により、一人ひとりの思いを把握に努めている。「帰りたい」という思いがあり、郷里訪問を行った。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時は生活歴など話していただいているが、中々全部を話して下さらなく、馴染みの関係ができると、だんだん話して下さるので、徐々に把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの中で、少しでも「やれそうだ」「続きそうだ」「興味がありそうだ」と思った事は、上司や担当者に相談し、ケアプランに取り入れ笑顔でできているか観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやカンファレンス・サービス担当者会議などにより作成、又は日々の変化(入院など)が生じた時変更している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の実践記録を見ながら、プラン通りに行われているか、より良いケアが出来ているか情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で発生するニーズに対して、利用者の「幸せ」「喜び」につながるものであれば、支援やサービスに取り組んでいる。 ・「看取り」を急遽行う事になり、上司・Dr.の計らいにより、訪問看護師を導入、家族に感謝してもらえた事は良かった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1回→傾聴うさぎの耳・ほほえみ紙芝居 2か月に1回→近所の美容師に散髪依頼 年に1回→保育園児の訪問・実習生の受け入れ		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切に、かかりつけ医の継続に努めている。又、入院により通院が困難になった場合、本人・家族の相談を受け、転医の支援も行っている。かかりつけ医・協力医療・機関と事業所の関係も良い状況にある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、利用者のバイタルチェック(体温・脈・血圧)を実施し、週1回(月)SPO2測定を行い、体調の変化や異常の早期発見に努めている。異常時すぐ連絡を取り、情報共有に努め、受診や看護が受けれるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医や協力医療機関との情報交換や相談に努めており、本人の面会・家族との連絡を常に行い、良い関係・維持に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を作成しており、担当者会議で家族へ十分に説明を行い、理解して頂けるように取り組んでいる。「かかりつけ医・協力医療機関」への相談も行い指示等を頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・定期的な訓練は出来ていない。 ・事故発症時には、状況検証を行い、今後の防止対策を話し合うと共に、もしもの発生時に備えて、慌てず適切な行動がとれるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は、施設職員に火災や地震の訓練を行っている。又、地域や近所の方に夏祭りの案内を出し、施設に来てもらい、その都度顔なじみの環境を作っており、緊急時の御願いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格尊重に努め、人生の先輩である事を心に留め、プライバシーを損ねない言葉かけや、対応をするように日々全職員で努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思い、希望が少しでも引き出せるよう、日常生活の中で寄り添いながら、日々全職員で取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの希望に添えるよう努めているが、午前中1時間程は、利用者同士の交流と健康維持を目的として、体操・歌・レクリエーション(輪投げ・ボール遊び)を行い、午後はそれぞれの過ごし方をして頂いている。(DVD鑑賞・パズル・午睡)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	余りおしゃれに関心のない利用者にも、行事や外出時、本人の希望を聴き、日常と違ったおしゃれを楽しんで頂けるよう支援に努めている。日々身だしなみには気配りをし、その人らしく過ごせるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に家庭菜園を作り、四季折々の野菜を育て、収穫し、調理をして食事に提供している。材料の下ごしらえも職員と一緒にして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	偏った食事にならないよう栄養のバランスを考え、一人ひとりに合った量・形態を考慮し提供している。水分量確保できるように努めている。食事摂取量は毎日記録し、栄養状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後実施しており、その人に合わせた介助・支援をしている。舌のケアも必要に応じ介助している。義歯消毒は毎週1回実施。利用者によっては、毎日実施している方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに添って、トイレ誘導・声かけを行い、少しでも排泄意識がつき気持ちよく過ごせるよう支援している。日中は自立支援に努めているが、年々レベル低下もあり、難しい状況になりつつある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄チェックを行い記録し、便秘症の利用者様には水分補給・腹部マッサージを実施している。頑固な便秘症の方にはかかりつけ医・協力医療機関へ相談し、緩下剤や坐剤を処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望を取り入れての入浴支援は難しい所もあるが、出来る限り対応に努めている。現在夜間入浴を希望される方はおられない。(基本的には、一日毎の午後の入浴を実施しているが利用者のレベル低下や拒否する方もおられる為、全員が一日毎ではない。)		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中は10時のお茶・牛乳での水分補給、体操・歌・レクリエーション・歩行運動をして頂く為、ホールで過ごしていただいている。午後は、利用者へ合った過ごし方を支援しており、1時間程臥床して頂く方も数名おられる状況。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員は利用者の内服薬の目的・副作用・用法についての理解に努めている。服用時は細心の注意を払い、安全に服用して頂くよう努めている。最近、服薬チェック表も使用し、より確実にできるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方々、それぞれの生活歴等を考慮し、できる限りその方に合った楽しみごとや役割ができ、張り合いのある生活が過ごせるように支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者のレベル低下が見られる中、困難なことも多くなっている。(車椅子対応数名)が、春～秋の天気の良い日は外気浴・苑庭散歩や近隣の散歩に出掛ける支援をしている。2か月に一度のドライブ実施、時々窓を開け、外の空気を入れ、季節を感じてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の年齢が高くなり、レベル低下も伴い、お金への関心が見られなくなっている。しかし、紅葉狩りへ外出した際は、数名の方には買い物を楽しんで頂ける支援はしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの申し出や要望があれば、いつでも対応できるようにしている。殆どの方が全く関心を示されない状況である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中をホールで過ごされる方に於いては、席の配置・ソファへの声掛けなど行い、ゆったりとした時間を過ごして頂けるように努めている。季節に合った飾りつけ・空調などの気配りを行い、居心地の良い空間づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の方々がそれぞれ思い思いの時間を過ごせ、ゆっくりとした時間が過ごせる工夫づくりに努めている。DVD鑑賞がゆっくりとできる空間づくりにも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ椅子を持って来られたり、家族の写真を飾ったりされ、居心地よく過ごしていただいている。又、利用者によっては、シンプルな空間を好まれる方もおられ、その方に合った居室づくりに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリー・手摺りの設置・夜間時はセンサー式照明の設置・各居室には分かりやすいようにそれぞれの花の名前を表示している。安全に日常生活が出来、自立した生活が送れるよう夜間、その方に合ったベッドサイド・パットセンサー設置などを工夫している。		